

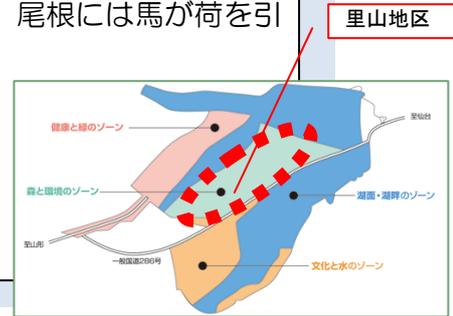


みちのく森林の聖様だより 第9回

みちのく公園「里山地区」とは？

みちのく公園「里山地区」は、仙台市の水瓶である釜房湖に面した里山です。ここにはかつて薪を採り炭焼きをしていた雑木林や、100年程前に植えられたスギ林があり、尾根には馬が荷を引いた里道、谷あいにはため池や棚田の跡もみられます。

みちのく公園では、この「里山地区」を、釜房湖という仙台市の水源を涵養するかけがえのない森であると捉え、その健全化のための樹林管理を行うとともに、人と自然とのかかわりが培ってきた里山の自然や文化を保全、継承し、今日に活かすことを目指しています。



12月19日（土）年末餅つき！

12月、師走の会員活動は、初年度に引き続き、年末餅つきを始めお正月の準備をしました。南地区・ふるさと村から杵と臼、せいろをお借りしました。味付けは、あんこ、石臼のキナコ、大根おろし、納豆、ずんだ、川崎町風の貝たくさん御雑煮。会員、ボランティアが力を合わせて、ワイワイと楽しく年末を味わいました。今年の無事を感謝しつつ、来年もよい年になりますようにと願いながらの活動でした！

餅つき

餅つきの準備は1週間前から始まります。まずは道具類です。南地区のふるさと村から、杵、臼、せいろ、石臼をお借りしました。

小豆は2日かけてじっくり煮ました。もち米は前日に研ぎ、水につけておきました。臼には水を張り、杵は水に浸しておきました。

当日は、ボランティアが7時半に集まり、火をおこし、お湯を沸かして、準備を進めました。

今回は2升臼を6回、12升の餅をつきました。2升ずつ蒸し米を臼へ入れ、大人の強い力で杵でこねます。じっくりとコネたら、いよいよ餅つき。子どもたちも交代でつきました。

石臼挽き

キナコは、大豆を七輪で炒って、石臼で挽いて作りました。石臼は、腕で回すというよりも、腹をしっかりと据えて、体でまわす感覚です。

炒った大豆を石臼で挽くのを何度も繰り返すと、なんともいえないよい香りがしてきます。手づくりならではの味です。



鏡餅づくり

鏡餅とは、餅を神仏に供える正月飾り。穀物神である「年神（歳神）」への供え物で、日本の伝統です。

鏡餅は、ついたばかりのお餅を丸めて作ります。今年は小さい鏡餅を作りました。子ども達も慣れない手つきながら、きれいにできました。

会員もボランティアも、ご自宅で飾っていただくことにしました。



ミニ門松づくり

門松とは、正月に家の門の前などに立てられる松や竹の正月飾りのこと。古くは、木のこずえに神が宿ると考えられていたことから、門松は年神を家に迎え入れるための依り代という意味合いがあります。

神様が宿ると思われる常盤木の中でも、松は「祀る」につながる樹木であることもあり、おめでたい樹として、正月の門松に飾る習慣となって根付いています。

お正月飾り用に、里山の竹、松、笹の葉、千両などを使って、小さな門松をつくりました。これもご家庭に飾っていただきます。



竹切り

門松をつくる材料の竹は、里山からは切り出しておきました。加工は参加のみなさんです。竹を切るのもなかなか大変ですね！



ツリーハウス体験

お餅を食べた後は、森の楽校へ！

初めてツリーハウスへ登った子もお馴染さんも、皆で仲良く遊びました。

